

ペットが過ごす環境はここ数十年で大きく改善されました。ワクチンなどの普及による感染症の減少、室内飼育による交通事故の減少などで寿命が延びていると考えられています。

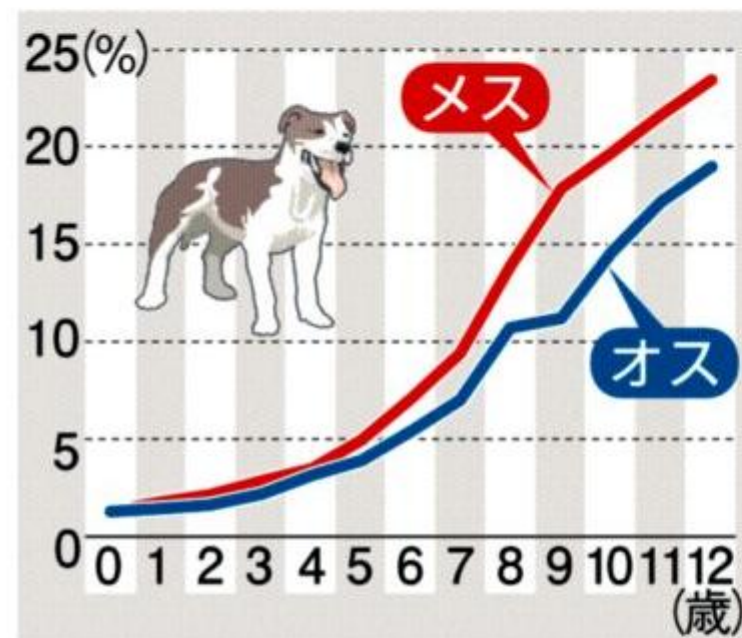
一方、長生きする犬や猫が多くなり、人間同様に加齢による病気が増えてきました。アニコム損保のデータによると、腫瘍疾患の保険請求は3歳以降に増え始め＝グラフ、8歳では10匹に1匹以上が腫瘍疾患で動物病院に通院しています。腫瘍疾患にはがん(悪性腫瘍)も含まれ、4～12歳の犬では最も多い死因です。

犬に多い腫瘍としては皮膚の腫瘍や乳腺腫瘍がありま

あ
ん
し
ん
！
ペ
ツ
ト
ラ
イ
フ

②0

ペットにもがんがある？ ①



す。どちらも飼い主が気づきやすい部位のため、日頃から体全体を触る習慣を付け、小さいしこりでも発見できるようにしておくことが重要です。猫でも多い部位は同じですが、全身をくまなく触られるのを嫌がる猫が多いため、

食事量や体重などの変化を見逃さないことが重要です。

犬では犬種によっても発症率が異なります。腫瘍にかかりやすい犬種はゴールデンレトリバーやラブラドルレトリバーで、特に注意が必要です。大型犬の場合は骨にできる腫瘍もあるので歩き方に変化がないか観察するといいでしょう。がんは予防が難しいため、早めの発見が最も重要です。

次回はがんの治療法について紹介します。

(アニコム損保

獣医師 井上舞)